

第9回

交通運輸技術フォーラム

—交通の自動化が支える日本の未来—

参加費無料

日時 令和7年2月26日（水）14:00～16:45

場所 AP八重洲 ルームL+M（東京都中央区京橋1-10-7 KPP八重洲ビル）

定員 450名（現地最大90名） 事前申し込み2月21日（金）17:00まで

※定員に達した時点で申込みを締め切らせていただきます。

主催：国土交通省

14:00～14:05	冒頭挨拶 国土交通省大臣官房 技術総括審議官 中崎 剛
14:05～14:25	自動運転レベル4 無人路線バスの実現に向けた取り組み ～群馬モデルの構築と実証～ 国立大学法人群馬大学 研究・産学連携推進機構 次世代モビリティ社会実装研究センター 准教授 小木津 武樹
14:25～14:45	SUBARUアイサイトにおける衛星システムの活用事例と展望 株式会社SUBARU 技術本部 ADAS開発部 ADAS開発第三課 課長 阿部 聡之
14:45～15:05	JR東日本が目指す新幹線・在来線の自動運転 JR東日本 鉄道事業本部 モビリティ・サービス部門 次世代輸送システム推進センター チーフマネージャー 鈴木 康明
	休憩（10分）
15:15～15:30	自動運転車の安全性能に関する国際基準の動向 国土交通省 物流・自動車局 車両基準・国際課 専門官 榊原 昂平
15:30～15:45	鉄道分野の自動運転における国土交通省の取組 国土交通省 鉄道局 技術企画課 課長補佐 中島 崇
	休憩（10分）
15:55～16:10	交通運輸技術開発推進制度成果説明 ① 「液状化被害軽減のための脈状地盤改良工法の開発と適用事例」 ライト工業株式会社 宇梶 伸
16:10～16:25	交通運輸技術開発推進制度成果説明 ② 「海難事故時の救援支援に関する研究開発」 オーシャンソリューションテクノロジー株式会社 代表取締役 水上 陽介
16:25～16:40	交通運輸技術開発推進制度成果説明 ③ 「次世代内航のための遠隔監視・遠隔操船システムの研究開発」 大阪公立大学 大学院工学研究科 航空宇宙海洋系 専攻教授 橋本 博公
16:40～16:45	交通運輸技術開発推進制度の紹介 事務局

参加申込方法

下記のURLから申込みフォームにアクセスの上、お申し込みください。
<https://forms.gle/z9jzwwkBiCEYetoq7>



お問合せ先：国土交通省 総合政策局 技術政策課 交通運輸技術フォーラム担当

TEL 03-5253-8111（内線25625）

14:05～14:25

① 自動運転レベル4 無人路線バスの実現に向けた取り組み～群馬モデルの構築と実証～



国立大学法人
群馬大学
研究・産学連携
推進機構
次世代モビリティ
社会実装研究
センター
准教授

小木津 武樹

大学時代から一貫して自動車の自動運転に関する研究活動を推進。20年以上自動運転の研究開発に携わってきたアカデミア研究者が、自身の取り組む自動運転の社会実装の取り組みに基づき、自動運転が持つ可能性について解説しながら、当該分野を取り巻く現状と課題、今後の技術的方向性について論じる。

14:25～14:45

② SUBARUアイサイトにおける衛星システムの活用事例と展望



株式会社
SUBARU
技術本部
ADAS開発部
ADAS開発第三課
課長

阿部 聡之

2020年に発売されたレヴォーグに搭載したアイサイトX（高度運転支援システム）では、地図データと衛星システムを活用した。本講演では、アイサイトXを実現するにあたり、衛星システムを採用した意図やその活用方法について解説する。

14:45～15:05

③ JR東日本が目指す新幹線・在来線の自動運転



JR東日本
鉄道事業本部
モビリティ・サービス部門
次世代輸送システム
推進センター
チーフ
マネージャー

鈴木 康明

JR東日本では、経営環境の変化に対応し、鉄道の輸送サービスを持続的に提供していくため、ドライバレス運転の実現により限られた人材を「人ならではの創造的な仕事」へシフトさせることを目指している。今回は、新幹線および在来線におけるドライバレス運転を目指した取り組みについて紹介する。

15:15～15:30 ① 自動運転車の安全性能に関する国際基準の動向

国土交通省 物流・自動車局 車両基準・国際課 専門官 榊原 昂平

交通事故の削減、ドライバー不足への対応等、様々な社会課題の解決に大きな役割を果たすと期待される自動運転について、早期の実現・普及に向けた国土交通省の国際基準調和の取組を紹介する。

15:30～15:45 ② 鉄道分野の自動運転における国土交通省の取組

国土交通省 鉄道局 技術企画課 課長補佐 中島 崇

鉄道分野では、運転士や保守作業員等の人材の確保が困難となっている。鉄道の運営や維持管理の効率化・省力化等に関する国土交通省の取組の1つとして、自動運転に係る技術基準の整備や導入促進に向けた技術開発について紹介する。

15:55～16:10 ① 液状化被害軽減のための脈状地盤改良工法の開発と適用事例

ライト工業株式会社 宇梶 伸

薬液注入により地盤内に脈状の改良体を割裂注入し、周辺地盤を密実化させることで、低コストで液状化被害の軽減が可能な脈状地盤改良工法を開発した。本発表では、その開発状況と近年の適用事例を紹介する。

16:10～16:25 ② 海難事故時の救助支援に関する研究開発

オーシャンソリューションテクノロジー株式会社 代表取締役 水上 陽介

国内に於いて毎年約2,000隻の船舶事故が発生し、不幸にも犠牲者が後を絶たない。本研究開発は、高精度衛星測位と船舶からの転落検知、航跡の可視化、ドローンによる搜索&救命具投下など、海難事故による行方不明者・死亡者ゼロに向けた研究開発である。

16:25～16:40 ③ 次世代内航のための遠隔監視・遠隔操船システムの研究開発

大阪公立大学 大学院工学研究科 航空宇宙海洋系専攻 教授 橋本 博公

プロペラ正転状態で後進が可能なベクトイン舵と独自の衝突危険度マッピング技術を組み合わせた船舶の遠隔監視・自動ブレーキシステムを開発した。本発表では、ジョイスティックによる遠隔操船も含めた実証実験の結果を紹介する。